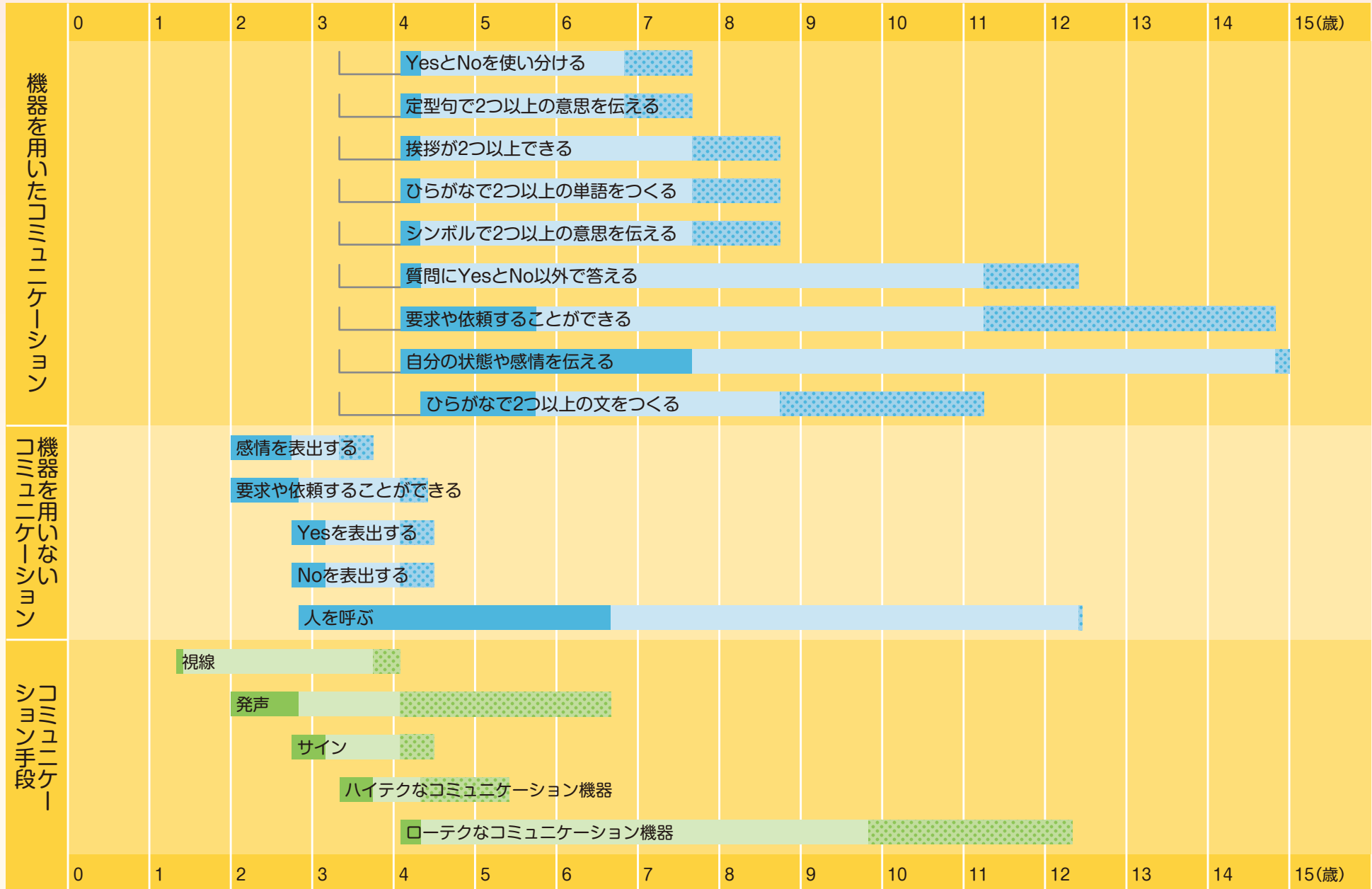


# 脊髄性筋萎縮症 (I 型) 児のコミュニケーション発達に関する里程碑



## 【項目についての説明】

■は1人、■は2人～4人、■は5人が達成できていることを表しています。

6人目以降の達成については、省略をしています。

□はコミュニケーション機器を用いていたSMA(I型)児の中での最年少を示していますが、まだ達成できていないことを意味しています。

「機器を用いたコミュニケーション」の項目は、ハイテクなコミュニケーション機器(携帯用会話補助装置や意思伝達装置)と、ローテクなコミュニケーション機器(カードやコミュニケーションボード)によるコミュニケーション手段の発達を表しています。

「機器を用いないコミュニケーション」の項目は、サイン・視線・発声・心拍数を上げてアラームを鳴らすというコミュニケーション手段の発達を表しています。

「コミュニケーション手段」の項目は、SMA(I型)児が使用しているコミュニケーション手段について、達成できているかどうかではなく、その手段の使用状況を表しています。

この「発達里程標」は、2012年9月～10月の時点におけるSMA(I型)児36人のコミュニケーション発達から作成されており、

少ない人数から作成していますので、あくまで「発達の目安」としてご利用ください。

なお、本里程標は「SMA家族の会」の協力と、日本学術振興会科学研究費補助金(研究課題番号：24650341)を受けて作成されました。

## 〈使用方法〉

1. 対象となるお子さんの年齢や、現在使用しているコミュニケーション手段と、この「発達里程標」を照らし合わせてください。
2. 同じ年齢のSMA(I型)児がどのくらいできているのかを確認し、お子さんも達成できそうかをご判断ください。  
例えば1人しか達成できていないとすれば、お子さんも練習すれば達成できる場合と、そうでない場合があります。  
5人達成できているのならば、お子さんも練習すれば比較的すぐに達成できる可能性があります。
3. 具体的な練習方法は「作業療法士」や「言語聴覚士」などの専門家へ、ご相談ください。